横浜市立 井土ケ谷小学校　　令和8年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

ともに輝きひびき合う子　～つながりを生かして学びを深める子どもを育てます～
〈知〉見通しをもった問題解決力や、豊かな自己表現力を育てます。
〈徳〉互いに認め合い、協働的に生きていこうとする姿勢を育てます。
〈体〉心と体を鍛え、自分や人の命を大切にしようとする姿勢を育てます。
〈公〉社会の一員としての資質を身に付け、まちと共に生きていこうとする姿勢を育てます。
〈開〉わがまちを理解し、社会への視野を広げ貢献しようとする姿勢を育てます。

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

＜問題発見・解決能力＞
＜情報活用能力＞
＜言語能力＞
＜持続可能な社会をつくる力＞

具体化した資質・能力

問題を発見する力　問題を解決するための見通しをもつ力　事実をもとに考える力
情報を整理・分析する力　複数の情報をもとにより妥当な考えをつくりだす力
相手や目的に応じて伝える力　考えを共感的に聞く力
学んだことを社会や生活に生かす力

中期取組目標

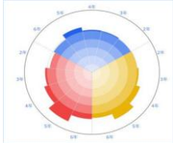
〇授業のユニバーサル化と学習環境を整備し、子ども一人ひとりに寄り添った、いじめのない風土をつくり、活力と魅力にあふれた学校にします。
・分かる楽しさが実感できるような教育を推進し、自ら考え、表現できる子の育成を目指し、一人ひとりが自分のよさを見出し、伸ばそうとしながら楽しい学校生活が送れるようにします。
・子どもたちの思いを受け止め、学力の向上を図るとともに、「生きる力」を育む「子どもが主人公」の学校づくりを推進します。
・一人ひとりのよさを生かし、家庭・地域・関係機関や公共施設と交流・連携を深め、「ひと」とのつながりを基盤とした誰もが「楽しい」と思える学校創りに努めます。
・アクティブセンター構想を柱として、つながりを生かした主体的な学びを創造し、問題発見・解決能力、情報活用能力、言語能力を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当　学校経営部会（知）	①「つながりを生かして学びを深める子どもの育成」を研究主題とし、児童一人ひとりの表現と、児童が相互に学び合うことを通して力を伸ばしていくことを目指します。 ②教職員が連携をとって子どもたちの実態把握をし，一人一人に合った授業づくりを実践し，学力向上を目指します。

学力向上に関わる本校の状況

(1)-1昨年度の横浜市学力・学習状況調査の結果に基づく、児童の学力の状況
横浜市学力・学習状況調査の結果を見ると、概ねどの学年も横浜市の平均とほぼ同等の正答率である。



国語科では、4・5・6年生に設定されている「情報活用」に関わる設問の本校の平均正答率が横浜市の平均正答率よりもやや高い傾向が見られる。
社会科では、内容によって正答率に偏りがあるが、どの学年も横浜市にの平均正答率とほぼ同等の正答率である。
算数科では、領域よってそれぞれの学年での正答率に偏りが見られる。2・4・5年生では、「空間図形」に関する設問、また、3・5・6年の「統計」に関する設問において、横浜市の平均と同等、もしくはやや高い正答率である。
理科では、多くの領域で横浜市の平均正答率以上、もしくは、ほぼ同等の正答率となっている。「粒子」の観点においては、どの学年でも横浜市の平均と同等、もしくはやや高い傾向が見られる。

(2)これまでの学校の取組状況
校内重点研究などの機会を通して教職員の指導力向上をねらうとともに、算数の習熟度別の学習など学習形態の工夫も行っている。

今年度の目標

子どもたちの実態を把握して、つながりを生かして学びを深める子どもを育成し、一人ひとりの学力を向上させることができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇通年 ・全学級で、生活科・理科の研究授業を行い、つながりを生かして学びを深める子どもの育成について子どもの姿を通して検証する。 ・職員作業日にアクティブセンター構想の実現のため、校内の学びの環境を整備する。 ・ICT支援員、コーディネーターと重点研推進委員会で一人一台の端末を効果的な利用方法を検討する。 ・児童支援専任、特別支援コーディネーター、国際教室担当者が中心となり、特別支援計画をもとにした指導体制でユニバーサルデザイン化を意識する。 〇4月 第一回学校経営計画全体会の場を年度始めに設定し、全職員で本校の目指す児童の姿に向けて共通に理解できるようにする。 〇6月 第一回校内重点研究会 〇9月
下半期	〇10月 第三回校内重点研究会 〇11月 第四回校内重点研究会 学力・学習状況調査の結果分析を行い、現状把握と今後のプランを立案し、授業改善に生かせるようにする。 〇12月 第五回校内重点研究会 〇1月 第六回校内重点研究会 ※校内重点研究会については外部講師を招き、授業改善につなげることができるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当　学校経営部会（徳）	①道徳科と他教科・領域や学校行事との関連を意識して道徳科の学習を充実させ、子ども人権会議、市・区子ども会議・横浜国際平和スピーチコンテスト、人権委員会の児童主体の取組等の活動を通して、多文化共生の心や人権感覚を高めていきます。 ②読書センターの充実や電子書籍「Yomokka!」の推進を通して、豊かな心を育てる読書活動を進めていきます。

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
本校の令和7年度中期学校経営計画のアンケートでは、「豊 か な 心」に関する評価が児童・保護者ともに高いものであったが、それに比べて「進んで読書すること」の評価が低いものであった。友達と協力して仲良く過ごすことや進んで挨拶をすることは、とても高い評価であった。日々の挨拶の状況や朝会・集会での児童の協働的な態度が互いに認知された。

令和7年度　中期学校経営方針に関わるアンケート結果

中期学校経営方針の項目	保護者						児童					
	5	4	3	2	1	5+4	5	4	3	2	1	5+4
生きてはたらく知	45.0%	44.0%	9.0%	1.0%	1.0%	89.0%	43.0%	46.0%	9.0%	2.0%	0.0%	89.0%
豊かな心	45.0%	45.0%	9.0%	1.0%	0.0%	90.0%	49.0%	46.0%	4.0%	0.0%	1.0%	95.0%
豊かな心	35.7%	45.2%	13.0%	6.5%	0.0%	80.9%	49.2%	43.8%	6.5%	0.0%	0.5%	93.0%
豊かな心	35.2%	53.7%	9.8%	1.2%	0.0%	88.9%	49.0%	46.0%	3.5%	1.5%	0.0%	95.0%
健康教育	45.0%	44.0%	10.0%	1.0%	0.0%	89.0%	49.0%	46.0%	4.0%	0.0%	1.0%	95.0%
安全管理・地域連携	40.0%	47.0%	9.0%	4.0%	0.0%	87.0%	46.0%	45.0%	6.0%	1.0%	0.0%	91.0%
しなやかな対応	40.0%	45.0%	9.0%	6.0%	0.0%	85.0%	46.0%	45.0%	6.0%	1.0%	0.0%	91.0%
インクルーシブ教育	40.0%	44.0%	9.0%	6.0%	1.0%	84.0%	47.0%	45.0%	5.0%	1.0%	0.0%	92.0%
授業支援	35.7%	56.1%	6.1%	1.0%	1.0%	91.8%	52.0%	43.0%	3.0%	0.0%	0.0%	95.0%
授業支援	36.0%	59.0%	4.0%	1.0%	0.0%	95.0%	54.0%	41.0%	3.0%	0.0%	0.0%	95.0%
授業支援	36.0%	57.0%	4.0%	1.0%	2.0%	93.0%	54.0%	39.0%	5.0%	0.0%	1.0%	93.0%
地域学校協働活動	35.2%	45.3%	8.0%	1.1%	1.1%	80.5%	49.4%	45.1%	4.5%	0.0%	1.0%	

(2)本校の豊かな心の育成への取組
前3年の中期計画では、やりたいことや主張があるものの、言葉が強くて上手く伝えることができない児童の現状があった。そのため、児童が決めた学校スローガンを中心に、道徳のみならず各教科・領域の学習を通して、「持続可能な社会をつくる力」を育成してきた。これにより、児童の自己有用感が高まる様子が見られた。今年度は、これまでの取組を継続していくことに加えて、積極的に本と触れ合い主体的に読書活動に関わることができるように、司書教諭や委員会活動を中心として児童主体の取組を生かして伸ばしていけるようにする。

今年度の目標

各教科・領域の学習を工夫したり、児童主体の取組を生かしたりして、主体的に自分の考えを見つめ、互いに認め合いながら自分の生き方をつくり出すことで豊かな心を育むことができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

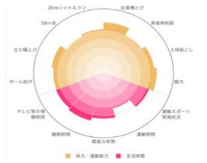
上半期	【通年】 ・全学年　朝の読書活動、保護者・地域ボランティアの読み聞かせ活動（朝と中休み） ・全学年　たてわり活動・ペア活動の取組 ・全学年　国語科等の学習と関連した読書活動 ・人権委員会　笑顔をたくさん増やそう運動（常時活動：全校児童へのあいさつや声かけ） 【4～5月】 ・高学年　体力テストでの低学年へのサポート ・6年生　横浜国際平和スピーチコンテストへの取組 【5～6月】 ・高学年　運動会での係活動 【7～9月】 ・全学年　横浜子どもいじめ会議に向けた各クラスでの話し合い、代表児童が会議に出席 ・低学年　養護教諭によるプライベートゾーンの指導 ・中学年　井土ケ谷小学校固有の材「ひろしまのエノキ」
下半期	【10～11月】 ・低学年　幼保小つながり　生活科の学習への招待・交流 ・中学年　福祉学習を通した盲目の方の講話・補助体験 ・高学年　人権活動をされている方の講話 【11月】 ・図書委員会　読書週間に向けた取組・読書集会 ・飼育委員会　近隣諸国の動植物について調査・発信 ・国際教室　国際教室で学ぶ児童が自国を紹介 【12月】 ・高学年　SNS・ネットスマホ教室 ・人権委員会　人権週間に向けた取組、近隣諸国について調査・発信

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体 担当　学校経営部会（体）	①家庭と連携するとともに、体育科・特別活動の学習、学校保健委員会や運動・保健・給食委員会の児童主体の取組を活かし、規則正しく健康な生活を送ることができる子どもを育てます。 ②校内放送やお便り（食育だより・保健だより）等を通して、健康教育・食育に関する情報発信を逐次行い、家庭と連携を図れるようにします。

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
・校庭が狭いため、安全を考慮し、休み時間のボール遊びは低学年と高学年で時間を分けている。夏になると、熱中症対策によって、外で遊ぶ機会がなくなってしまい、教室で過ごすことが増えている。
・野球、バスケットボール、サッカー、空手、スイミング等、地域のスポーツクラブが充実しており、所属している児童が多い。
・ごはん、野菜、果物がやや残る傾向にあるが、全国学力学習調査の生活習慣の定着について、全国、神奈川県の基礎を上回っており、生活習慣における意識が、令和3年度以降年々高まってきている。



シャトルランや上体起こし、反復横跳びや立ち幅跳びで成果が表れた。体力・運動能力の高まりは、児童の学習への関心・意欲、自己有用感の高まり、教師の個に寄り添った支援などが相まって成果として表れた。一人ひとりが意識し「もう少しと」努力することで向上が図られている。
（全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用）

(2)これまでの学校の取組状況
子ども主体による運動・保健・食事に関する活動を日常的に位置づけて取り組むことで、子どもたちの健やかな体を育成してきた。

今年度の目標

体育科・特別活動の学習、学校保健委員会や運動・保健・給食委員会の児童主体の取組を活かして、規則正しく健康な生活を送る子どもを育てるとともに、校内放送やお便り等を通した健康教育・食育に関する情報発信を随時行い、家庭との連携を図ることができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	【通年】 ・朝会や校内放送、ロイロノートの活用等を生かした各学級の取組の充実 ・（保健）学校保健委員会の取組「歯と口の健康について」 ・（運動）中休みを校庭や体育館で遊ぶことの奨励 ・食育だより・保健だよりの毎月発行による情報発信 【4月】 （体力テスト）年度当初の体力テストの実施、体力テストの結果から自己の体力の実状への理解 【5月】 （運動会）高学年を中心とした係活動、代表児童によるリレー 【7月】 （水泳交流会）南中学校の水泳部との交流会の実施
下半期	【通年】 ・朝会や校内放送、ロイロノートの活用等を生かした各学級の取組の充実 ・（保健）学校保健委員会の取組「歯と口の健康について」 ・（運動）中休みを校庭や体育館で遊ぶことの奨励 ・食育だより・保健だよりの毎月発行による情報発信 【9月～】 （運動委員会）運動に親しむための取組を児童が主体となって企画した内容 【12月】 （球技大会）自ら運動に取り組む態度を育むための大岡小学校との球技大会 【1月】 （給食委員会）給食週間に向けた取組